

産業委員会

市の産業経済部（農林業、商工業、観光、雇用労働）に関する事項に対応する委員会です。

◎吉田耕造、○庄司勝義
秋山幸則、川崎 修、河本英敏
谷口圭三、仁木豊司、西野修平
久永良一

当委員会に付託された議案六件、継続審査中の請願三件を審査。議案五件は全員一致で可決。他の一件は賛成多数で可決。続いて請願三件は賛成多数で継続審査と決した。議案一八六号「平成十七年度津山市一般会計補正予算（第十次）」の商工費のうち、地方バス路線維持費補助金について、前年度との比較、補助金総額について説明を求め

た。合併により加茂・阿波地区のバス路線、支所間ごんごバス等が増えたため、単純には比較できないが、バス運行に係る経費は、約一億円弱とのことである。民間タクシー会社と地元町内会が低料金で契約を行い乗り合いタクシーとして利用している他都市の手法を参考にしてほしいとの意見があった。農業振興費のうち、中山間地域等直接支払交付金の減額補正の理由について意見を求めた。前年度一四一協定が一八協定に減った。面積にして約一〇〇ヘクタール程の減となっている。主な理由としては高齢化と事務負担の増加などが原因である。交付金の使途制限、一律的な指導が地域の実情に合っていないところに問題がある。地域の声を国・県に上げてもらいたい。議案第一六六号の、畜産業費の加茂堆肥製造施設は、農業振興につながる施設運営を目指してほしい。

日程

平成十七年十月三日（月）

～五日（水）

視察場所と内容

「群馬県前橋市」

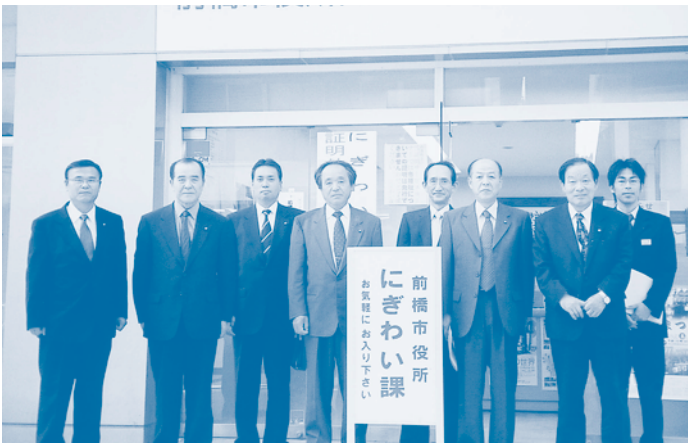
●前橋市中心市街地活性化事業について

「栃木県鹿沼市」

●「焼肉のまち かぬま」の推進事業について

「栃木県宇都宮市」

●「地域ブランドづくりによる地域活性化」について



前橋市では「にぎわい課」を中心市街地に設置し、商店街空洞化対策事業等の意欲的な活性化事業が取り組まれていた。また中心市街地での家用自動車を規制するとともに、低料金で移動できるコミュニティバスを導入し、市民や来街者に活用されている。しかし車両コスト面等の問題もあり、三十九路線の内、二十二の路線で赤字経営となっているとのことであった。

鹿沼市では、生産・販売者側が和牛の地産地消を積極的にアピールする一方、商店街出店者に対する支援策を行なってきており、官民が一体となって商店街の活性化・食のブランド化に取り組んでいると感じられた。

また宇都宮市では、地元店舗の活動、行政の支援策による餃子のブランド化に成功しており、中心市街地の空き店舗を活用する事業以外にも、首都圏観光客の集客にも大きく力を入れている。

◎ 前ページまでの下の余白の標語について、このような行為を行い、処罰されますと公民権停止の対象となります。